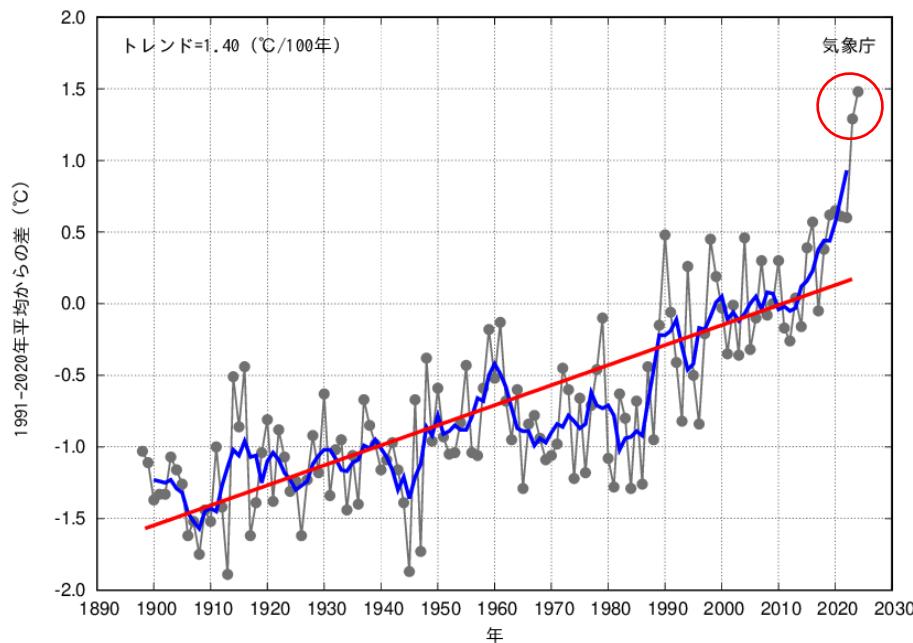


資料5

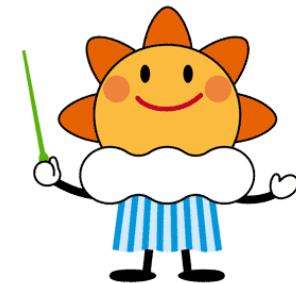
今冬の気象概況と 最新の3か月予報について



仙台管区気象台 気象防災部 地域防災推進課
地球温暖化情報官 中川憲一

【気象庁HP】日本の年平均気温のページより
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html

- 今冬の気象概況
- 最新の 3 か月予報



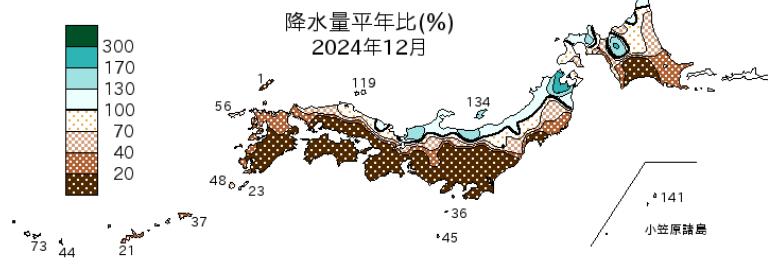
2024年11月～2025年1月：12月から寒冬

- 11月までは平年より暖かい状況
- 12月から西高東低の冬型の気圧配置が続き、寒気の影響を受けやすかつたため、全国的に気温が平年より低い日が多くなった（特に北日本）

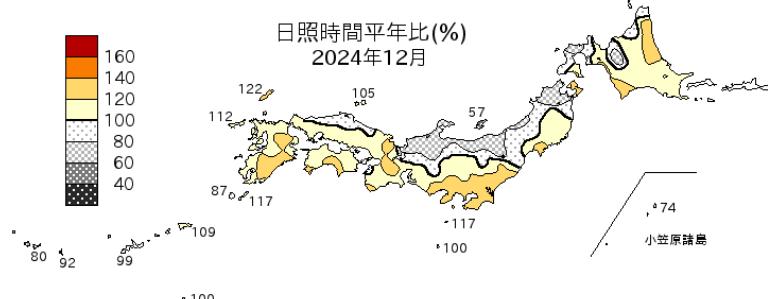
平均気温
平年差
(°C)



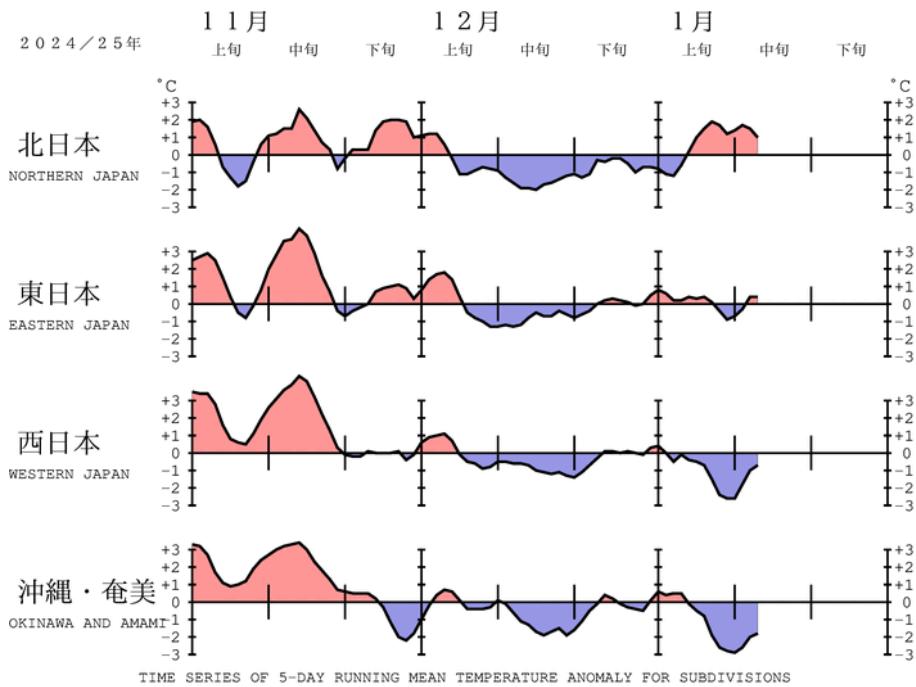
降水量
平年比
(%)



日照時間
平年比
(%)



気温平年差時系列グラフ (11月～1月)

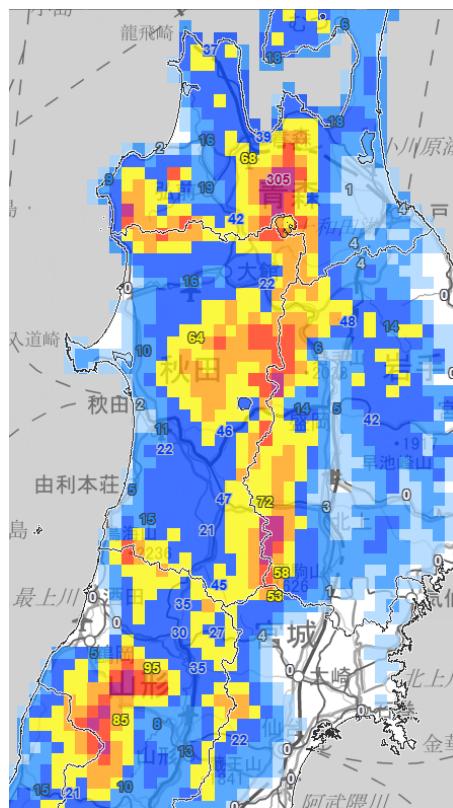


日本海側での大雪（12月～1月）

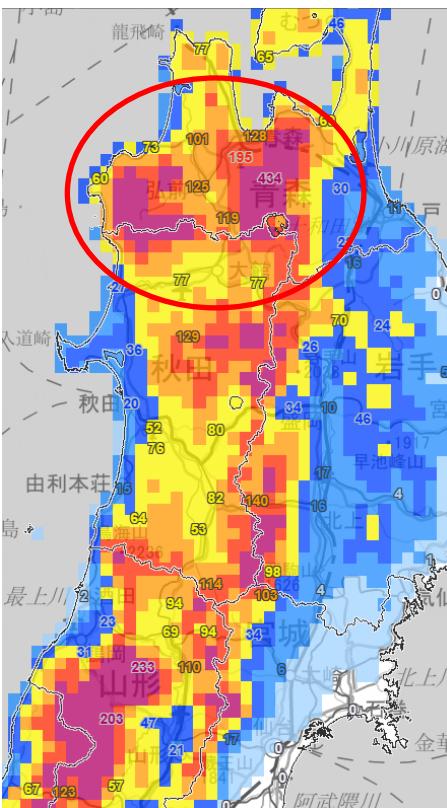
- 冬型の気圧配置となる日が多く、日本海側を中心に大雪となつた
- 青森県では記録的な大雪

1/17の積雪深の比較

2024年（暖冬）



2025年



2025/1/17

日最深積雪（括弧内は平年値）

青森 128cm (55cm)
弘前 125cm (44cm)

今冬

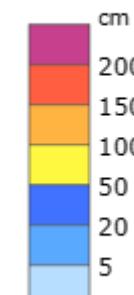
平年の2～3倍程度の積雪

2024年の冬

記録的な暖冬

日本海側では降雪量がかなり少なかった

解析・予報
／アメダス

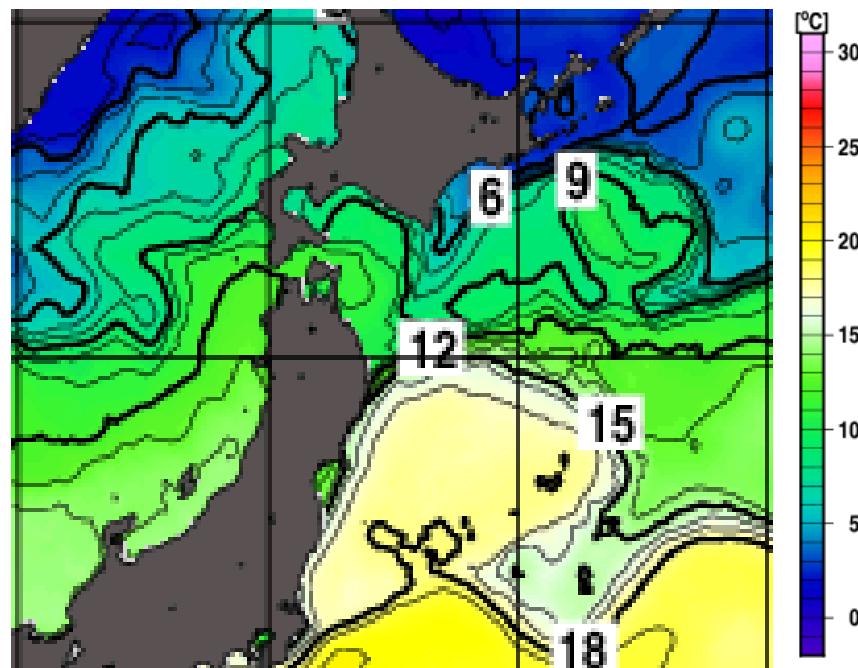


【気象庁HP】今後の雪

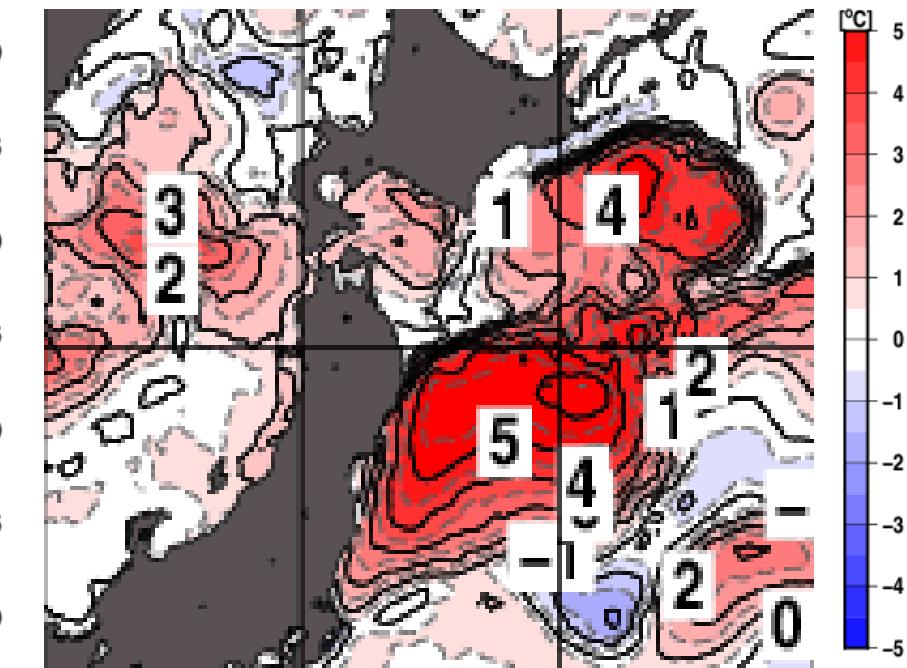
<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

- 2023年春頃から、福島県沖から三陸沖で平年より高い状態が続く
 - 黒潮続流の北上が続く
- 日本海でも平年より高い状態が続く

2025年1月上旬 海面水温

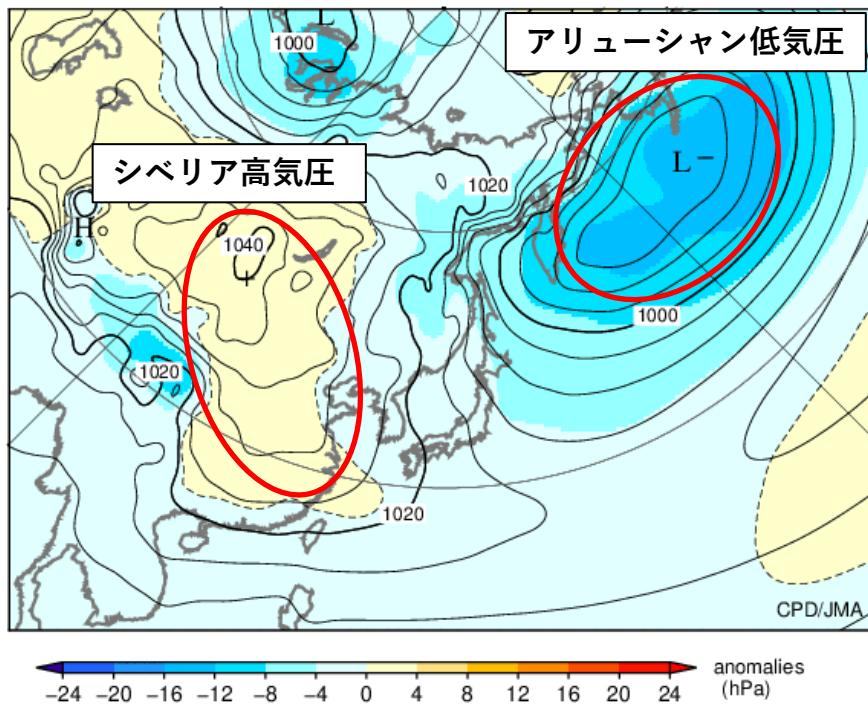


2025年1月上旬 海面水温平年差

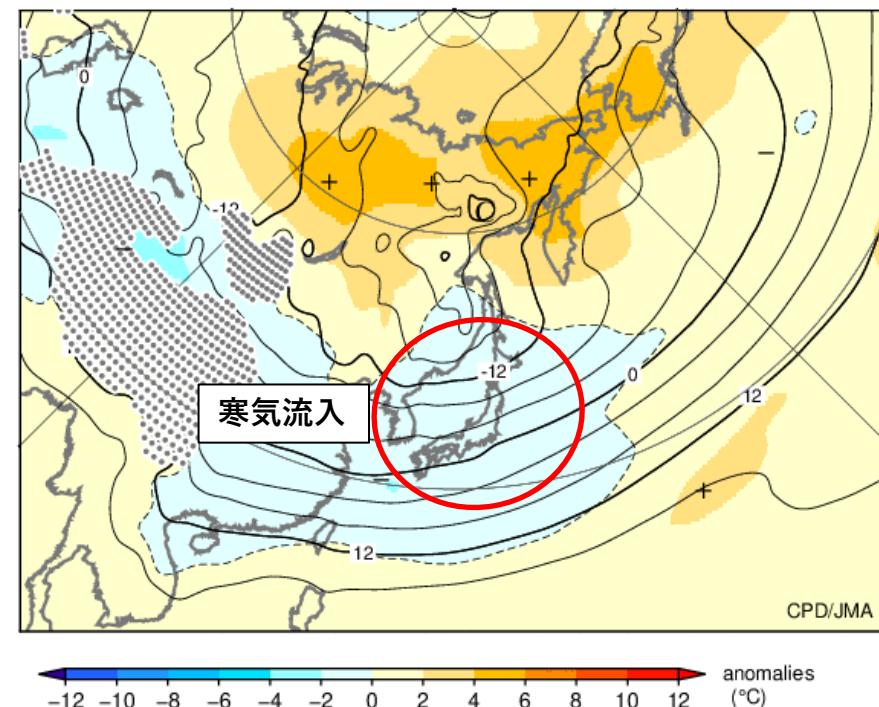


- アリューシャン低気圧が強く（平年より気圧が低い）、大陸のシベリア高気圧も強い（平年より気圧が高い）ので、日本付近には大陸からの寒気が流れ込みやすかった

2024年12月 海面気圧と平年差



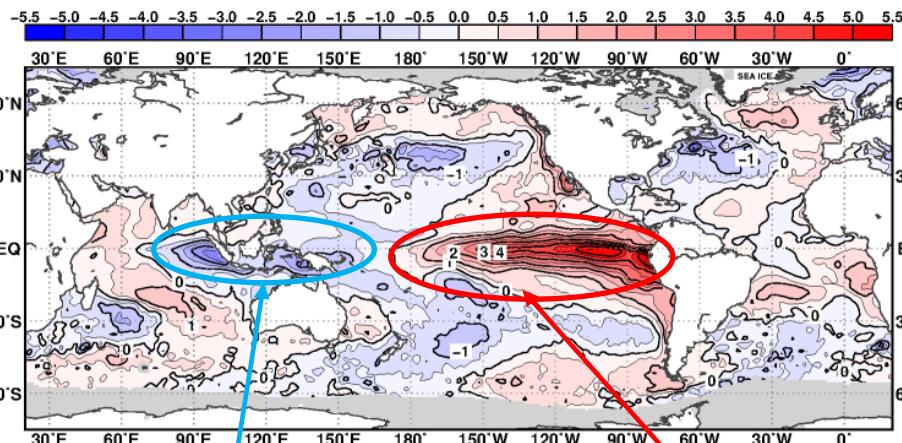
2024年12月 850hPa気温と平年差



- エルニーニョ現象やラニーニャ現象は日本の天候に大きな影響を与える

エルニーニョ現象時

1997年11月 海面水温平年差

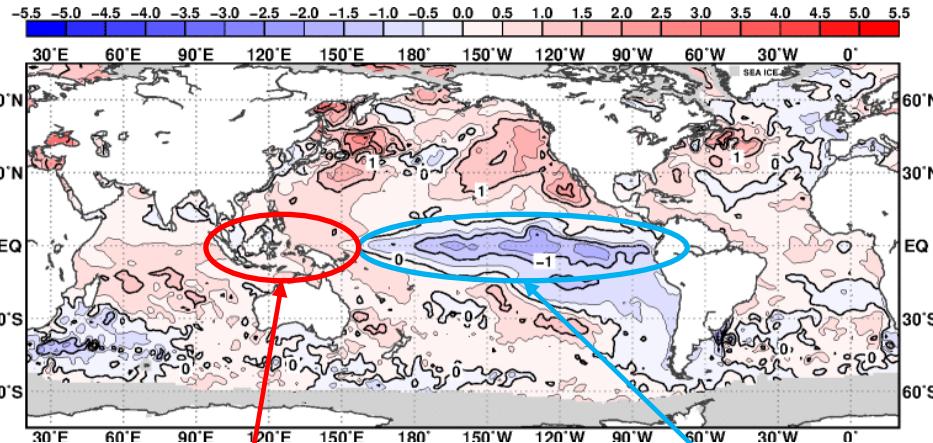


インドネシア周辺海域では
平年より低いことが多い

南米ペルー沖の海面
水温が平年より高い

ラニーニャ現象時

2020年12月 海面水温平年差

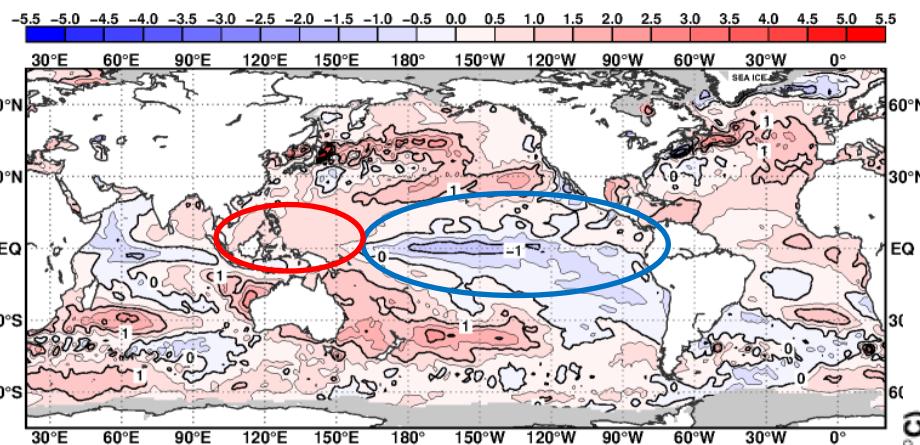


インドネシア周辺海域では
平年より高いことが多い

南米ペルー沖の海面
水温が平年より低い

- エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態と見られるが、ラニーニャ現象に近い状態となっている
- 冬の間はラニーニャ現象に近い状態が続くが、次第に弱まるため、春にかけてラニーニャ現象の定義を満たすまでには至らず、平常の状態が続く可能性が高い（80%）

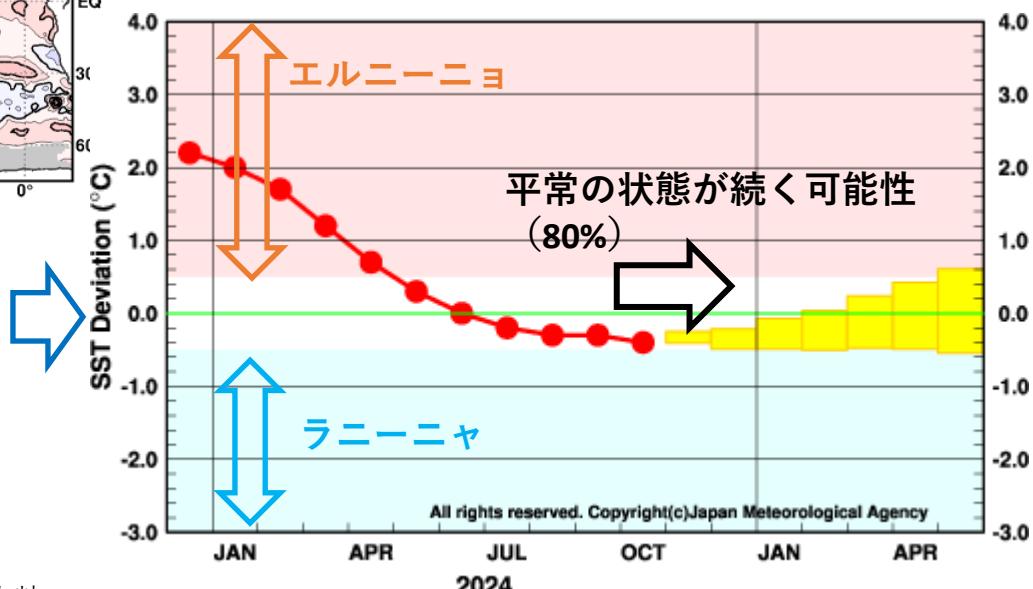
世界の海面水温の平年差（2024年12月）



エルニーニョ監視海域

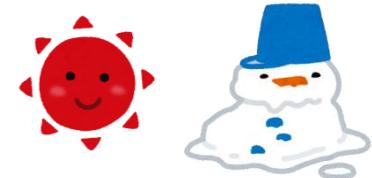
海面水温の基準値との差（実況と予測）
2023年12月～ 5か月移動平均値

熱帯海域はラニーニャ的な水温分布



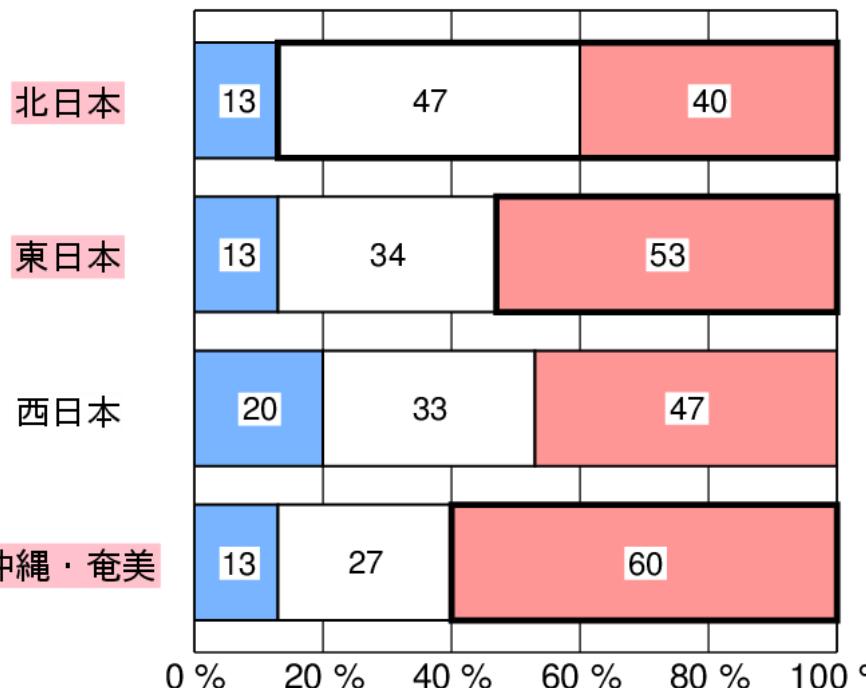
エルニーニョ現象発生時の日本の春（3～5月）の天候

- 平均気温：北日本では平年並か平年より高い傾向
- 降水量：北日本太平洋側で少ない傾向



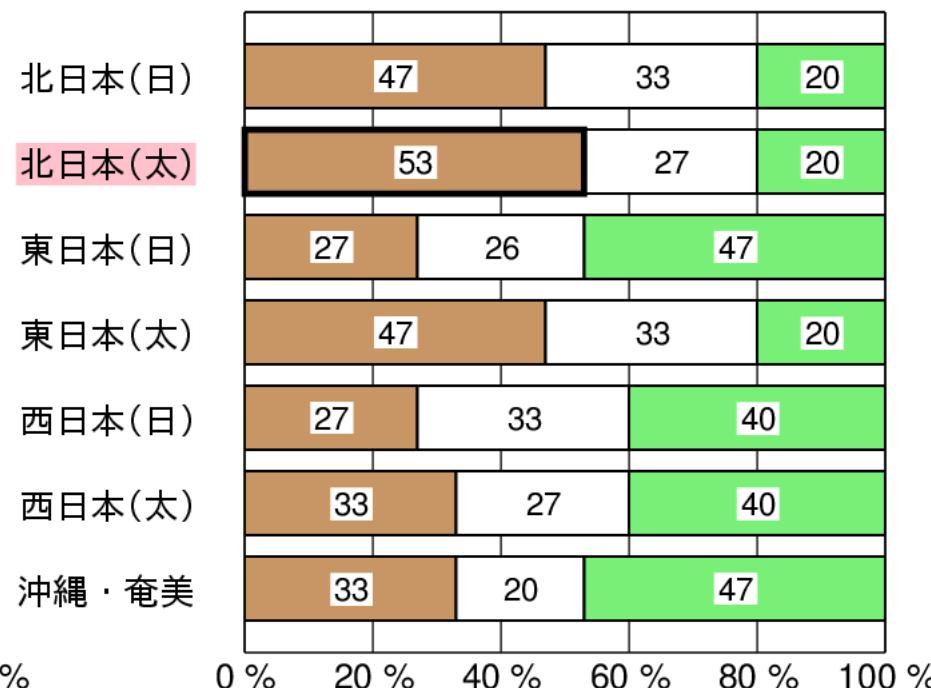
エルニーニョ現象が発生しているときの

平均気温 <春> ■ 低い □ 並 ■ 高い



エルニーニョ現象が発生しているときの

降水量 <春> ■ 少ない □ 並 ■ 多い



統計期間 1948年～2021年。棒グラフの数字は出現率を示す。

地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は統計的に有意な傾向を示す。

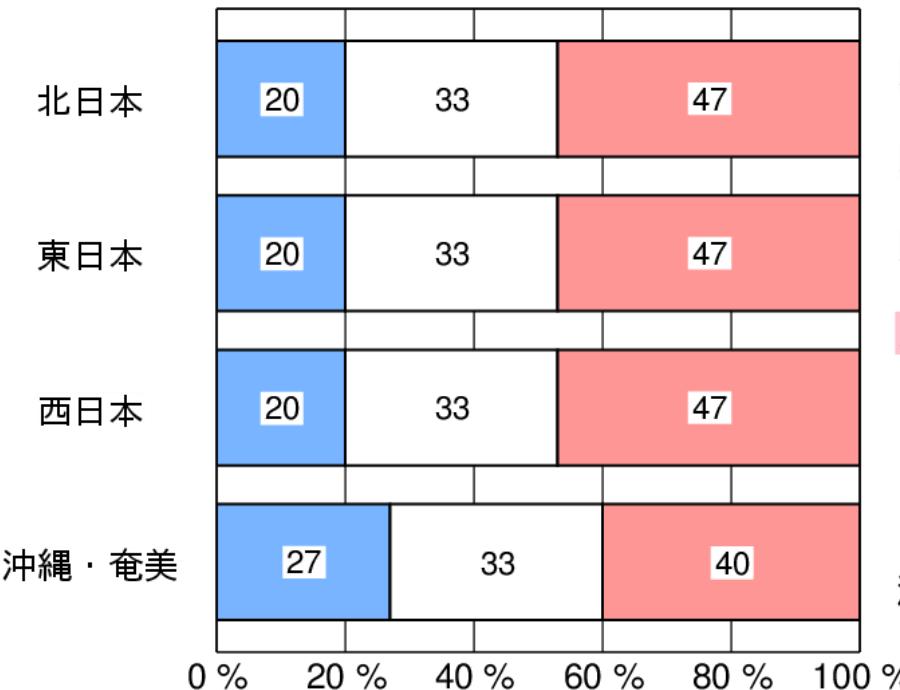
ラニーニャ現象発生時の日本の春（3～5月）の天候

■ 平均気温・降水量ともに、北日本では統計的に明瞭な傾向はみられない

※平均気温については、平年並か平年より高い年がやや多い傾向がみられる

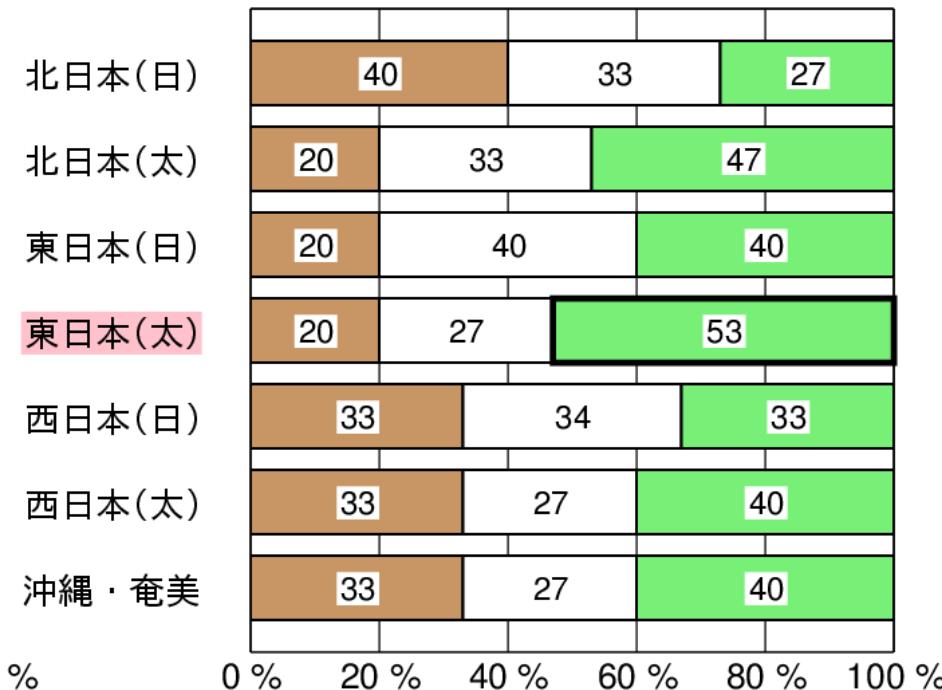
ラニーニャ現象が発生しているときの

平均気温 <春> ■ 低い □ 並 ■ 高い



ラニーニャ現象が発生しているときの

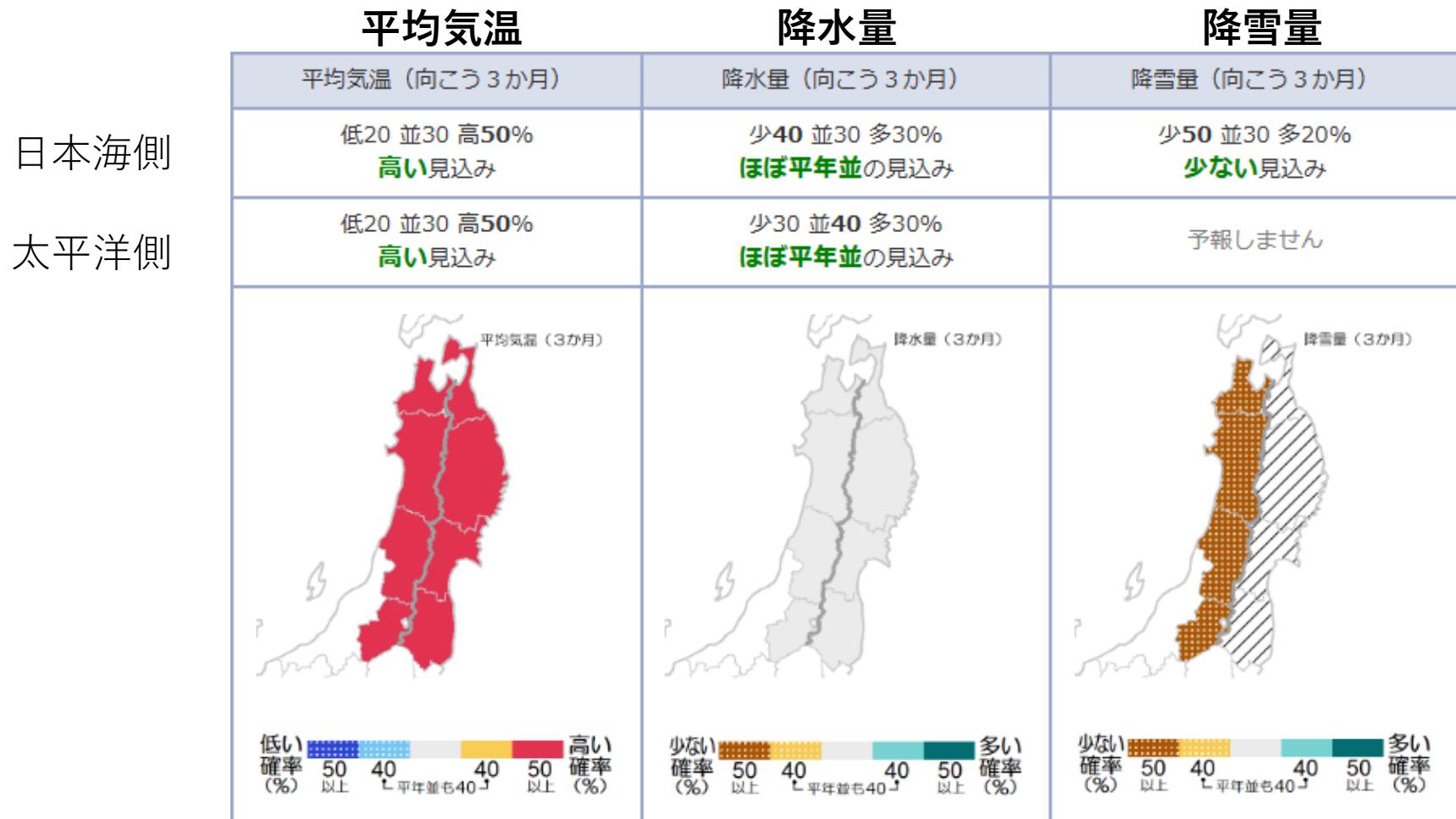
降水量 <春> ■ 少ない □ 並 ■ 多い



統計期間 1948年～2021年。棒グラフの数字は出現率を示す。

地域名の赤い帯と棒グラフの太黒枠は統計的に有意な傾向を示す。

- 寒気の影響を受けにくいため、向こう3か月の気温は高い見込み
- 東北日本海側では、冬型の気圧配置が弱く寒気の影響を受けにくいため、向こう3か月の降雪量は少ない見込み



3か月予報 (2月～4月：東北地方 月毎)

- 平均気温は、3月は「高い」、4月は「平年並か高い」見込み

平均気温

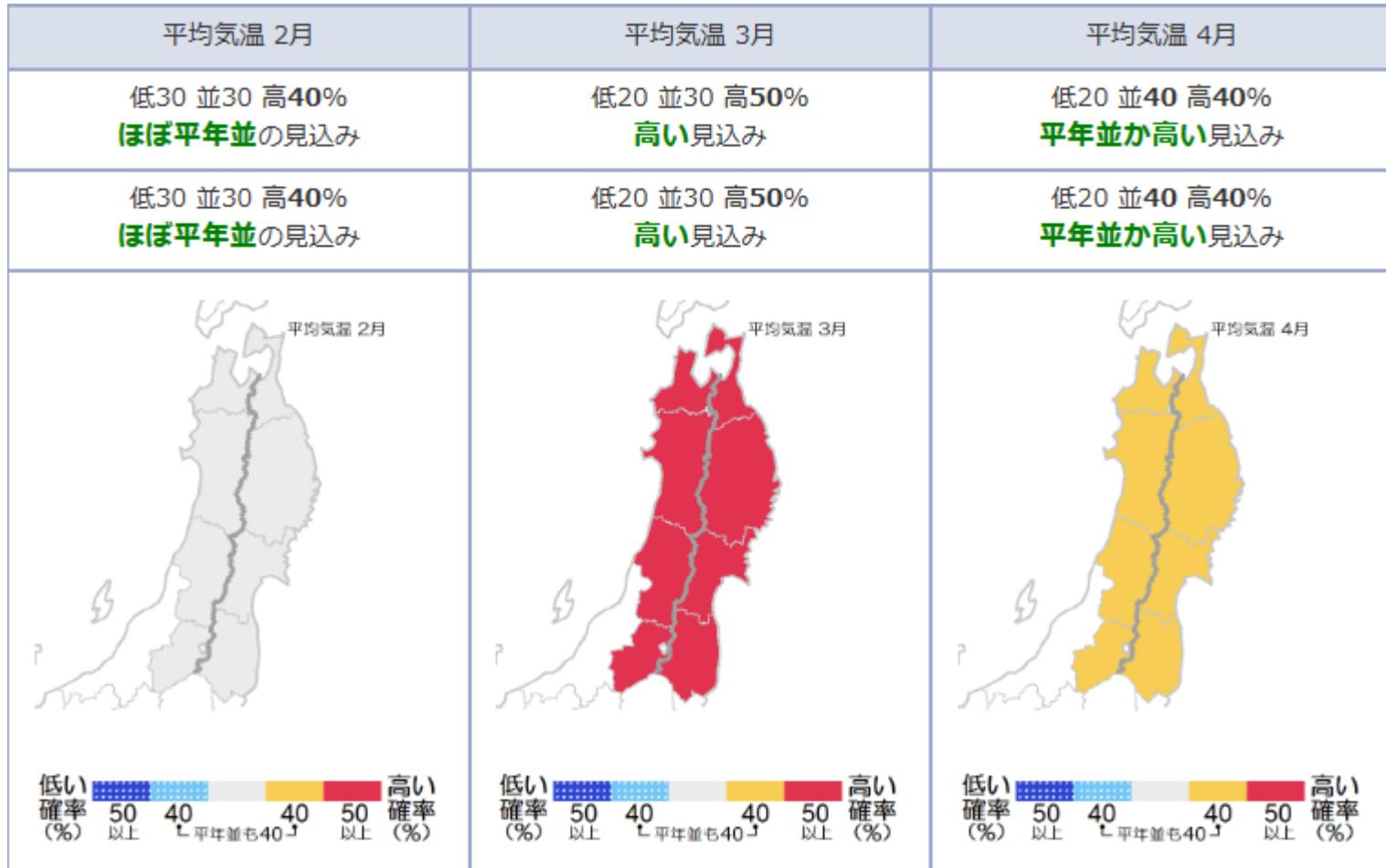
日本海側

太平洋側

2月

3月

4月



3か月予報 (2月～4月：東北地方 月毎)

- 降水量は「ほぼ平年並」の見込み

降水量

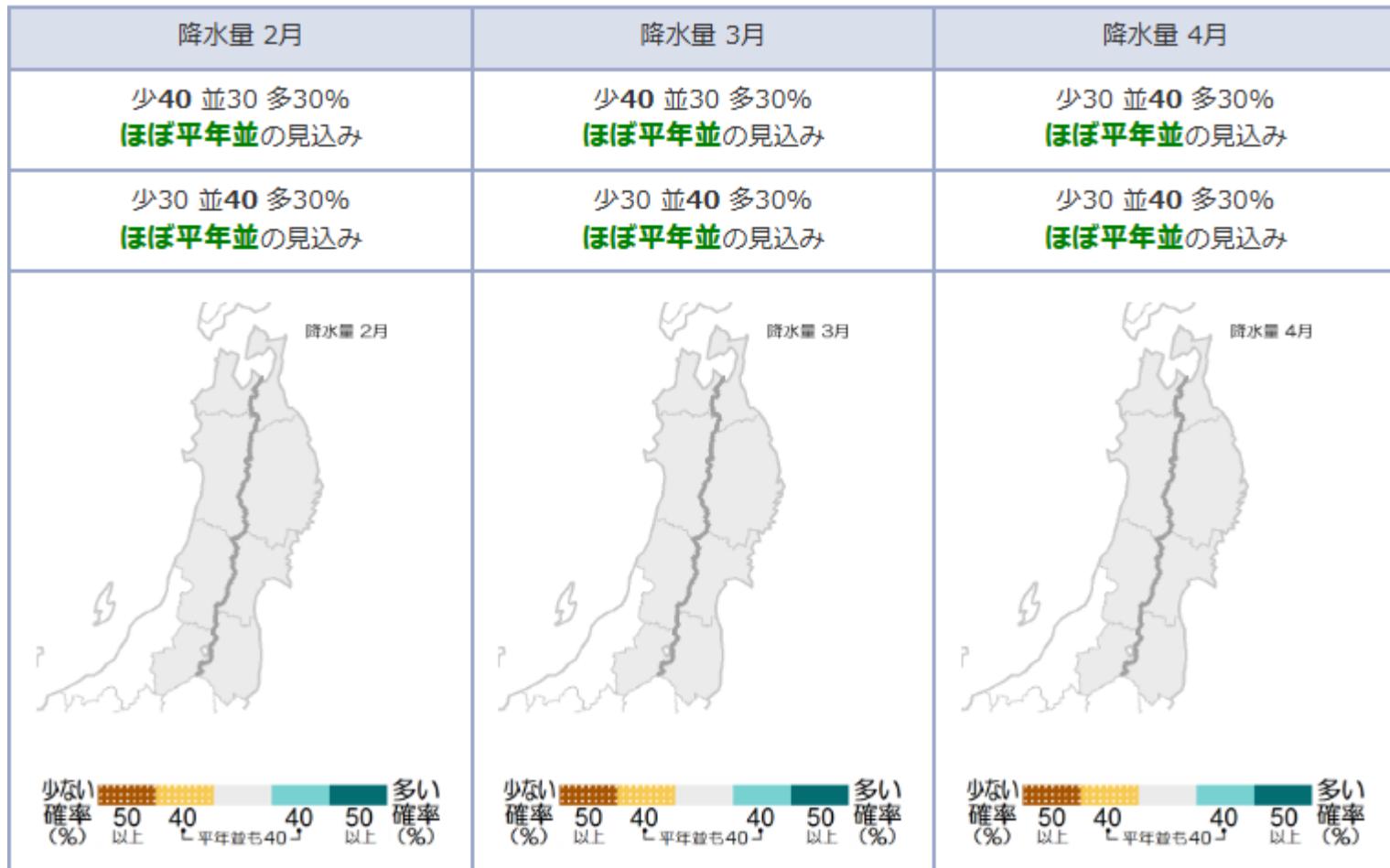
日本海側

太平洋側

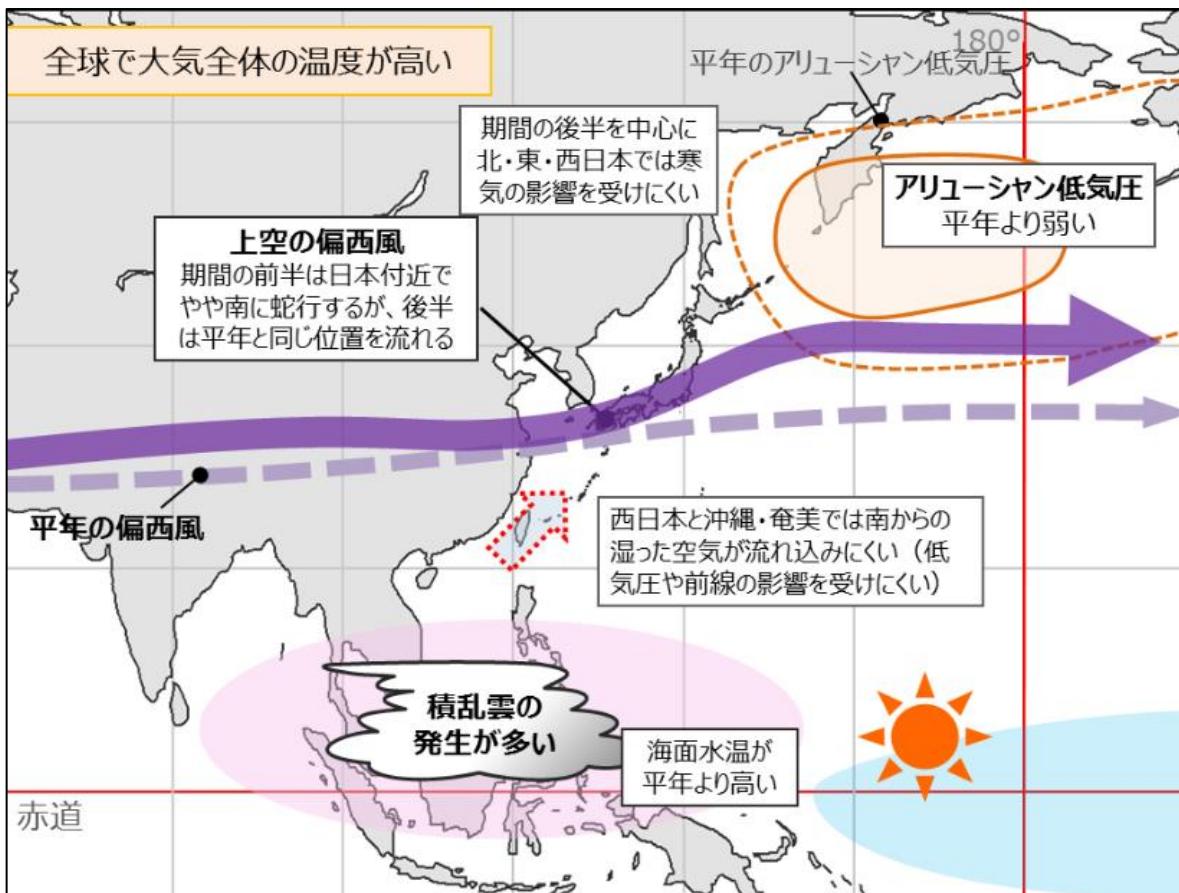
2月

3月

4月



予想される海洋と大気の特徴



- ・ 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高い見込み
- ・ ラニーニャ現象に近い状態は次第に弱まるものの、太平洋熱帯域の海面水温は中部では低く、西部では高い見込み
- ・ このため、積乱雲の発生は、日付変更線付近では少ないが、インドネシアからフィリピン付近で多い見込み
- ・ これらの影響により、アリューシャン低気圧は平年より弱く、東北地方では期間の後半を中心に寒気の影響を受けにくい見込み

次回3か月予報 (3月～5月：2/25発表)
暖候期予報 (6月～8月：2/25発表)

早期天候情報と2週間気温予報

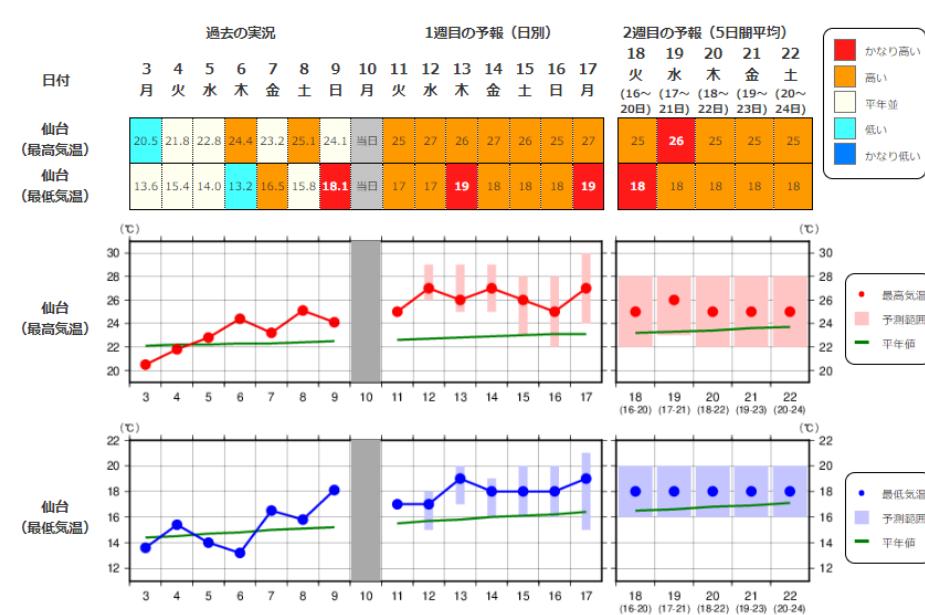
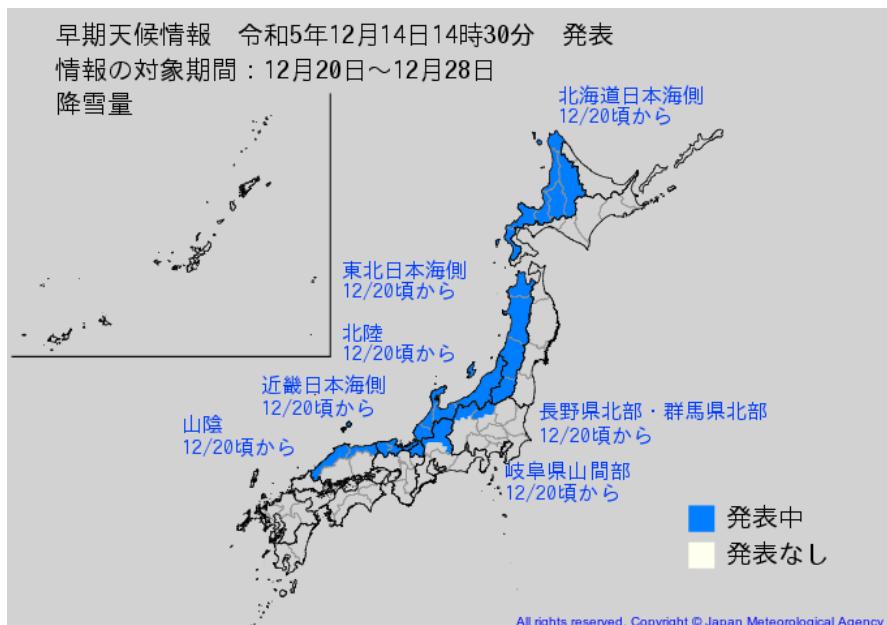
- 1週間～2週間先の高温や低温・大雪（日本海側）などの予測情報を確認できます

早期天候情報

原則毎週月・木発表

2週間気温予報

毎日14時30分発表



6日～14日先を対象に、**10年に1度**程度しか起きないような著しい**高温**や**低温**、**大雪**（日本海側）となる可能性が高まったときに発表

2週間先までの最高・最低気温（5日間平均）の予報を確認できる

ご清聴ありがとうございました

